

その13 中宮

(平成6年2月1日号—第174号)

枚方市のへそ、すなわちちょうど真ん中に、中宮地区があります。戦前、この地には、旧国鉄津田駅から池之宮を通り、中宮小学校あたりから大きく北に曲がって、現在の小松製作所^{*1}の敷地の中まで線路が敷かれていました。ところが、貨車に乗せられていたのは、冷たい光を放つ砲弾だったのです。当時を知る人は、そのことについて暗い思い出を持っています。ここには陸軍造兵廠[ぞうへいしょう]枚方製造所と禁野火薬庫があり、禁野火薬庫が昭和14年3月1日、大爆発を起こして約100人の死者^{*2}と600人に上る負傷者を出したからです。それから50年目に当たる平成元年に、本市は3月1日を平和の日と定め、毎年さまざまな平和事業を行っています。線路跡は、今では機関車のモニュメントを配した平和ロードとして整備され、市民の憩いの場となっています。



21 中宮平和ロード(中宮西之町)

また、この中宮地区には、百済王[くだらのこにきし]氏の氏寺である国の特別史跡・百済寺跡があります。百済王氏は、7世紀中ごろの百済国の義慈王[ぎじおう]の子である善光^{*3}が朝廷から百済王の姓をもらい、代々朝廷に仕えたとされています。また、その子孫の百済王敬福は、功績によって河内守に任ぜられ中宮に住むようになったと考えられています。その後も、百済王氏は繁栄を続け、桓武天皇の後宮に百済王氏の女性が3人入るなど、天皇の外戚にもなりました^{*4}。



22 百済寺跡(中宮西之町)

中宮の地名の由来は、天皇の行宮があったためとか、中宮職がこの地を支配したためとか言われています。いずれにしても、朝廷との深い結びつきからついた地名に違いありません。

*1 現コマツ。

*2 陸軍の報告書では94人。これ以外に朝鮮人と思われる1人を含む2人の死者名を記した帳簿もある。

*3 禅広とも書く。

*4 桓武は、母親の高野新笠[たかののにいがさ]が百済第25代武寧王[ぶねいおう]につながる渡来系氏族出身だったので、百済王氏は朕の外戚なりと詔を下した。